ENDOSNIPE COMMUTATOR 環境構築手順書

- ENDOSNIPE COMMUTATOR SETUP MANUAL

Version 1.3

最終更新日:2013/09/10

1. 概要 - Abstract

本ドキュメントはSystemTapを用いてシステム監視を行うための環境構築手順について述べる。監視対象のシステムは以下の通りである。

- This document describes how to set up your local work environment to monitor systems using SystemTap. The monitoring target systems are as follows:
- MySQL
- PostgreSQL
- Apache
- PHP
- Python
- Ruby

2. 事前準備 - Preparation

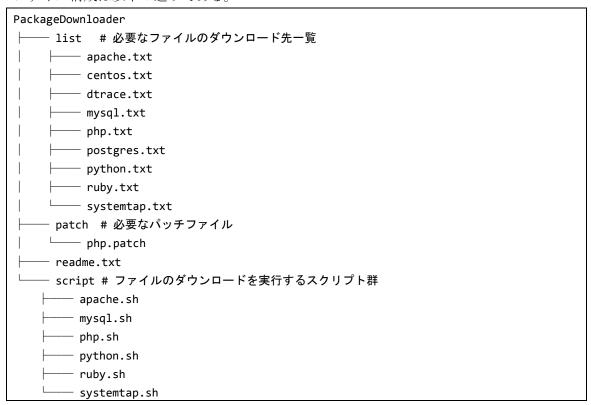
本章では環境構築に必要なファイルを準備する方法について述べる。

2.1. 方針

ダウンロード作業とインストール作業は別々に行えるように、ファイル群は完全に分割してある。これは、ネットワーク環境が無い場所での作業を考慮したためである。

2.2. ダウンロードスクリプト

ダウンロードスクリプトはネットワークに接続可能な環境において利用する。 ファイル構成は以下の通りである。



2.2.1. ダウンロード実行方法

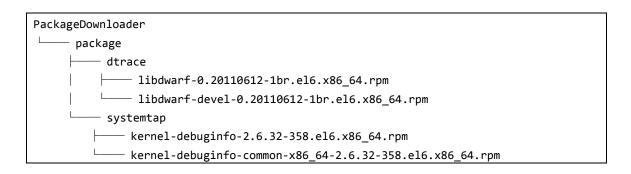
ダウンロードを実行するには script ディレクトリ内のスクリプトを実行する。スクリプトのファイル名はダウンロード対象のサービスを表している。例えば、SystemTap 本体と SystemTap をインストールすることに必要なファイル群をダウンロードするスクリプトは systemtap.sh である。

以下のコマンドを実行してファイルのダウンロードを行う。

```
$ cd PackageDownloader/script
$ sh ./script/systemtap.sh
```

2.2.2. ダウンロード実行結果

ダウンロードスクリプトを実行すると以下のファイル構成図のように package ディレクトリと、インストールするサービス名のディレクトリが作成され、その中に必要なパッケージがダウンロードされている。なお、2.2 で示したファイル構成と重複するディレクトリは省略している。



2.3. インストールスクリプト

インストールはネットワーク環境の有無を問わず利用可能である。PackageInstaller は /home/user_name/work/に配置し、ダウンロードスクリプトを利用して用意したファイル を移動させる。

2.3.1. ダウンロードファイルの配置

ファイル構成が以下のようになるように package ディレクトリを移動させる。 ダウンロードスクリプトによって作成された package ディレクトリとその中身をそのまま 移動させれば良い。



2.3.2. インストール実行方法

インストールの実行方法については各サービスのインストール手順の章において述べる。

3. 構築する環境 – System architecture

構築する環境のシステム構成は Figure 3.1 の通りである。

- System architecture to build is shown in Figure 3.1

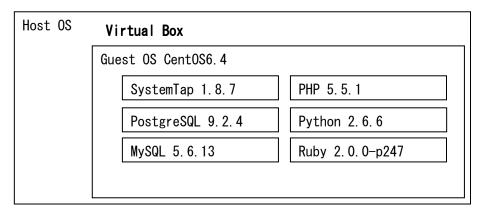


Figure 3.1 システム構成 -System architecture

4. OS 環境構築 - Build Operating System environment

本章では CentOS6.4 をインストールし、TeraTerm などの SSH クライアントから接続できるようにするための設定手順を説明する。

- This chapter describes how to install CentOS6.4 and configure connecting via SSH client such as TeraTerm.

4.1. CentOS6.4 のインストール - Installing CentOS

CentOS6.4 のインストールには以下のファイルが必要である。

- CentOS-6.4-x86_64-bin-DVD1.iso
- CentOS-6.4-x86_64-bin-DVD2.iso

これらのファイルを C:\text{YTemp\text{YTools\text{\text{YCentOS}}6.4}} 配下に配置する。

ディレクトリが存在しない場合は新規作成する。

- 1. 『新規』をクリックして VM を作成する
- Create new VM by clicking the "New".



- 2. 名前に『CentOS64』と入力
- 名前(N): CentOS64 タイプは『Linux』を選択。
- タイプ(T): Linux バージョンは『Red Hat(64bit)』を選択す る。
- バージョン(V): Red Hat(64bit)

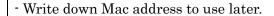


3. 仮想ハードドライブまでは全てデフォル 会がカードビュイプス信息 ファイルの集所とサイズ ト設定のままにする。ストレージの容量 を 32GB に設定する。 32,00 (0) es Pe 4. その後のダイアログは全てデフォルトの まま進める。(ここで設定した値は後から 変更することができる。) Keep all setting to default. Control William Str. 40 - Anni 5. 新しく作成した VM を選択した状態で設 U.B. Address 定をクリック ■ 7524= **⊚** \$20 € Specie Click "Setting" button. 20年2月2日 - 20日 カラードフィックター (本 NOTE OF THE STATE Company of the Company ⊕ π−r×π al december of resource de emis en 1977 – In hell Matters United by A Vil ストレージタブをクリック Click "Storage" tab. WING DIRECTOR TOTAL USE .0-0 (0.00) [Rad Hz (04 bio 4 80% 00 7. コントローラー:IDE 横のアイコンをク 0+10584 7.HL-9 リックし、 AND SWEETS CentOS-6.4-x86_64-bin-DVD1.iso を選 eri Ariya **Tark**a Mark to a two visites 択する。 (ii) Complete vel Click the icon next to "コントローラー: IDE". Select Fyther CC CentOS-6.4-x86_64-bin-DVD1.iso.

- ※インストール・ディスクを使用する場合は"空" と表示されているディスクのアイコンをクリッ クし、ディスクの挿入されているドライブを設定 すれば、そのディスクからインストールすること が可能。
- 8. ネットワークタブを選択
- Select "ネットワーク" tab. rダプター1 を選択
- Select "アダプター1".

割り当て:ホストオンリーアダプターを選択

- Attached to: Host-only Adapter. 表示されている MAC アドレスは次の手順で 使用するため控えておく。



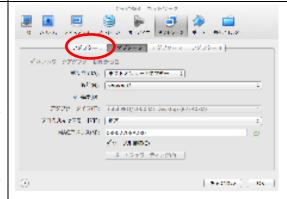
- 9. VM を起動する
- Boot VM.
- 10. Install or upgrade an existing system を選択する。

Select Install or upgrade an existing system.



- 11. Disk Found は skip を選択する
- Select skip in Disk Found.
- 12. Choose a Language では English を選択する
- Select English in Choose a Language.





ENdoSnipe Commutator 環境構築手順書

13. Keyboard Type を選択する。日本語キー	Military of the 12 for septemble Cheese & Language
ボードの場合は jp106	Perlig the Installation process?
- Select Keyboard Type.	Chronic Lag History Court Co
14. 右図のような警告が表示された場合、	CASSADA CASSAD
Re-initialize all を選択 - If appear dialog like figure, select Re-initialize all.	Descript
	AND ALL TAPE FOR MELTINGERS SEE A SQUARE SERVICES SEED OF SEE
15. Time Zone Selection では作業している	
地域のタイムゾーンを入力する。	
- Select Time zone.	
16. Root password を入力	
- Input root password.	
17. Partitioning Type では Use entire drive を選択	
- Select Use entire drive in Partitioning	
Type.	
- Which drive(s) do you want to use for	
this instration?	
18. Writing storage configuration to disk	
では Write changes to disk を選択	
- Select "Write changes to disk" in	
Writing storage configuration to disk.	
19. インストールが開始される(完了まで 10	
分程度時間がかかる)	
Start installation. (It takes about	
10min.)	
20. Reboot したらインストールが完了する	
- After rebooting, installation is	
completed.	
L	<u>i</u>

4.2. ホスト OS からゲスト OS に SSH 接続するための設定

- How to configure enabling SSH connections to CentOS.

1. VM を起動する	
- Boot VM.	
2. 右記のコマンドを実行	# vi
- Run the command.	/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth0
3. 右記のように記述するEdit the configuration file as follows.	DEVICE=eth0 HWADDR=xx:xx:xx:xx:xx
HWADDR には前節の手順 8 で控えた	TYPE=Ethernet UUID=xxxxx
MAC アドレスを記述する。 - Input HWADDR as Mac Address the same as Step 8 in previous section.	ONBOOT=yes NM_CONTROLLED=yes IPADDR=192.168.56.10 # このアドレス宛に SSH アクセス可能になる (This address can be accessed by SSH) NETMASK=255.255.255.0 NETWORK=192.168.56.0 ※bootproto=dhcp は削除
	USERCTL=no IPV6INIT=no PEERDNS=yes
4. ネットワーク設定を有効にするために	# /etc/init.d/network restart
右記のコマンドを実行する。	
Run the command to restart network.	

4.3. 一般ユーザを追加する – Create a regular user account

root ユーザのままで全ての作業を行うことは安全面の都合上適切でない。そのため、作業 用の一般ユーザを作成し、そのユーザに管理者権限を与える。

- Doing all work as the SuperUser can be dangerous. You could type a command incorrectly and destroy the system. Therefore, you create a regular user account and give the user administrative privileges.

(1) ユーザの作成とパスワードの変更 - Create a user and set the password

以下のコマンドを実行する。user_name は適宜置き換えること。

- Execute the following commands. (replace "user_name" with your name.)

10

-

groupadd user_name

useradd -g user name user name

passwd user name

Changing password for user user_name.

New password:

Retype new password:

passwd: all authentication tokens updated successfully.

(2) visudo コマンドを実行

以下のコマンドを実行する。

- Execute the following commands.

visudo

コマンドを実行すると sudoer の設定ファイルが開く。vi と同じエディタ操作で編集することができる。

- When you run the visudo command, configuration file opens. You can edit it in the operation same as vi.

(3) 新規ユーザに sudoer 権限を与える・Give the user sudo access

以下のようにファイルを編集する。

- Finally, edit the configuration file as follows.

```
## Allow root to run any commands anywhere
root ALL=(ALL) ALL
user_name ALL=(ALL) NOPASSWD: ALL //この行を追加 - add this line
//空白にはタブを利用 - Use Tab as space
```

以上でユーザの作成作業と管理者権限の付与は完了である。

- Creating a user account and giving administrator privileges are complete. ここからは root ユーザではなく新しく作成したユーザを利用して作業をする。
- From now on, work with the new account.

4.4. OS ディスクイメージのマウント - Mount OS disk image

ディスクイメージに同梱されているパッケージを利用するためにディスクイメージを VM にマウントする。

- Mount disk image on the VM to use rpm files.

(1) 仮想マシンの電源を切る - Shutdown virtual machine

以下のコマンドを実行する。

- Execute following command.

\$ sudo shutdown -h now

(2) ディスクイメージのセット- Set disk image

4.1 と同様の手順で CentOS-6.4-x86_64-bin-DVD1.iso をセットする。

- Set CentOS-6.4-x86_64-bin-DVD1.iso the same as 4.1.

属性が以下のようになっていることを確認する。

CD/DVD ドライブ(D): IDE プライマリスレーブ

(3) 仮想マシンの起動 - Boot virtual machine

※インストール・ディスクを使用した場合は、VerchalBox の設定画面(システム)で HARDDISK を起動順序の一番上にして起動する。

(4) ディスクイメージのマウント - Mount disk image

以下のコマンドを実行する。

Execute following commands.

\$ sudo mkdir -p /mnt/media

\$ sudo mount /dev/sr0 /mnt/media

/dev/sr0 が無ければ/dev/sr1を試すこと

(5) マウント結果の確認 – Operation check

以下のコマンドを入力してパッケージの一覧が表示されることを確認する。

- Make sure display package list with following commands.

\$ ls /mnt/media/Packages/ 389-ds-base-1.2.11.15-11.el6.x86_64.rpm

389-ds-base-libs-1.2.11.15-11.el6.i686.rpm

389-ds-base-libs-1.2.11.15-11.el6.x86_64.rpm

/** 以下略 **/

5. SystemTap の環境構築- Build SystemTap Environment

本章では SystemTap の環境を構築し、カーネルの監視ができるようになるまでの手順を述べる。

5.1. 前提条件

本章は以下の章の手順が完了していることを前提とする。

● 4. OS 環境構築 – Build Operating System environment

5.2. 必要なファイルの用意 - Prepare required files

(1) ファイルのダウンロード - Download files.

以下のコマンドを実行する。

- Execute following commands.

\$ cd PackageDownloader/script

\$ sh ./script/systemtap.sh

以下のディレクトリにファイルが保存される。

- PackageDownloader/package/dtrace
- PackageDownloader/package/systemtap

(2) ファイルの移動 - Replace files

以下のディレクトリ構成になるようにファイルを移動させる。

- Move directories such as the following structure.



5.3. カーネルバージョンの確認 - Make sure kernel version

以下のコマンドを実行し、出力値が等しいことを確認する。

```
$ uname -r
2.6.32-358.el6.x86_64
```

カーネルのバージョンに応じて適切なパッケージを選択する必要がある。そのため、出力 値が上述した値と異なる場合は、作業環境に合ったパッケージを用意する必要がある。

5.4. インストールの実行 - Execute installation

以下のコマンドを実行する。

- Execute following commands.

```
$ cd /home/user_name/work/PackageInstaller/script/
$ sh systemtap.sh
```

5.5. 動作確認 - Operation check

以下のコマンドを入力して以下の出力例と同様に『Pass 5: run completed』まで表示されればインストールは成功である。

- Finally, check the output when you run the following commands. Installation is successful if terminal appears as "Pass 5: run completed".

```
$ sudo stap -v -e 'probe vfs.read {printf("read performed\u00e4n"); exit()}'
Pass 1: parsed user script and 86 library script(s) using
195564virt/24204res/3036shr/21512data kb, in 120usr/10sys/137real ms.
Pass 2: analyzed script: 1 probe(s), 1 function(s), 3 embed(s), 0 global(s) using
425420virt/123724res/8244shr/113384data kb, in 1250usr/410sys/2799real ms.
Pass 3: translated to C into
"/tmp/staprAAFYi/stap_46a1073d20dc9291206be1bd8ef51bc3_1471_src.c" using
415604virt/119608res/6604shr/113384data kb, in 10usr/90sys/114real ms.
Pass 4: compiled C into "stap_46a1073d20dc9291206be1bd8ef51bc3_1471.ko" in
5130usr/1270sys/10965real ms.
Pass 5: starting run.
read performed
Pass 5: run completed in 10usr/30sys/390real ms.
```

6. PostgreSQL の環境構築 - Build PostgreSQL environment

本章では PostgreSQL の環境を構築し、PostgreSQL の情報を SystemTap を用いて取得する手順について述べる。

6.1. 前提条件

本章は以下の章の手順が完了していることを前提とする。

- 4. OS 環境構築 Build Operating System environment
- 5. SystemTap の環境構築- Build SystemTap Environment

6.2. 必要なファイルの用意 - Prepare required files

(1) ファイルのダウンロード - Download files.

以下のコマンドを実行する。

- Execute following commands.

\$ cd PackageDownloader/script

\$ sh ./script/postgres.sh

以下のディレクトリにファイルが保存される。

• /PackageDownloader/package/postgres

(2) ファイルの移動 - Replace files

以下のディレクトリ構成になるようにファイルを移動させる。前章でダウンロードした dtrace も必要であることに注意すること。

- Move directories such as the following structure.

PackageInstaller

— package

— postgres

6.3. postgres ユーザの設定 - Configuration of postgres user

以下のコマンドを実行する。

- Execute following commands.
- \$ sudo groupadd postgres
- \$ sudo useradd -g postgres postgres
- \$ sudo passwd postgres

6.4. インストールの実行 - Execute installation

以下のコマンドを実行する。

- Execute following commands.
- \$ cd /home/user_name/work/PackageInstaller/script/
- \$ sh postgres.sh

6.5. インストールディレクトリのオーナー変更 – Change owner of installed file

以下のコマンドを実行する。

- Execute following commands.

\$ sudo chown postgres:postgres /usr/local/pgsql-9.2.4/

6.6. パスの編集 - Configuration of path

(1) postgres ユーザへ切り替える – Change to postgres user

以下のコマンドを実行する。

- Execute following commands.

\$ su postgres

Password: # input password of postgres user

(2) .bash_profile を編集 – Edit .bash_profile

以下のコマンドで.bash_profile の編集を開始する。

- Edit .bash profile with the following command.

\$ vi /home/postgres/.bash_profile

以下の記述を『export PATH』の手前に追記する。

- Append the following description to /home/postgres/.bash_profile before "export PATH".

#PostgreSQL

POSTGRES_HOME=/usr/local/pgsql-9.2.4

export POSTGRES_HOME

PATH=\$PATH:\$HOME/bin:\$POSTGRES_HOME/bin

export PGDATA=\$POSTGRES_HOME/data

export PGLIB=\$POSTGRES_HOME/lib

export LD_LIBRARY_PATH=\$POSTGRES_HOME/lib

以下のコマンドで.bash_profile の編集を有効にする。

- Enable .bash_profile with the following command.

\$ source /home/postgres/.bash_profile

6.7. データベースの初期化 - Init DB

以下のコマンドを postgres ユーザで実行する。

- Execute following command by postgres user.

\$ initdb

6.8. データベースの起動 - Start up DB

以下のコマンドを postgres ユーザで実行する。

- Execute following command by postgres user.

\$ pg_ctl start

6.9. 動作確認 - Operation check

以下のコマンドを実行してProbeの一覧が出力されることを確認する。この手順はpostgres ユーザではなく作業ユーザで行う。

- Make sure that the list of Probes is output with the following commands by not postgres user but work user.

_

ENdoSnipe Commutator 環境構築手順書

```
$ sudo stap -1 'process("/usr/local/pgsql-9.2.4/bin/postgres").mark("*")'
process("/usr/local/pgsql-9.2.4/bin/postgres").mark("buffer__checkpoint__done")
process("/usr/local/pgsql-9.2.4/bin/postgres").mark("buffer__checkpoint__start")
process("/usr/local/pgsql-9.2.4/bin/postgres").mark("buffer__checkpoint__sync__start")

/** 中略 **/
process("/usr/local/pgsql-9.2.4/bin/postgres").mark("wal__buffer__write__dirty__start")
process("/usr/local/pgsql-9.2.4/bin/postgres").mark("xlog__insert")
process("/usr/local/pgsql-9.2.4/bin/postgres").mark("xlog__insert")
```

7. MySQL の環境構築 – Build MySQL environment

MySQLのインストールに必要なモジュールは以下の通りである。

- Modules required to install MySQL is as follows.
 - ① MySQL
 - ② CMake
 - ③ gcc-c++
 - 4 libstdc++-devel

各モジュールのバージョンは 2013 年 7 月 31 日時点での最新版である。なお、モジュール間の依存関係は図 7-1 モジュール間の依存関係の通りである。

- Each module to use the latest version in the July 31, 2013. Dependencies between modules are shown in Figure 7-1.

① MySQL ② CMake ③ gcc-c++ ④ □ ④ libstdc++-devel

※モジュール間の矢印は依存を表す

- Arrow describes dependencies

between modules.

図 7-1 モジュール間の依存関係

dependencies between modules

MySQLのインストールに必要なファイルを用意する。

- Prepare the files necessary to install the MySQL.

7.1. gcc-c++ のインストール – Install gcc-c++

以下のコマンドを実行してパッケージをインストールする。

- Install with the following commands.

\$ sudo rpm -ivh /mnt/media/Packages/libstdc++-devel-4.4.7-3.el6.x86_64.rpm
\$ sudo rpm -ivh /mnt/media/Packages/gcc-c++-4.4.7-3.el6.x86_64.rpm

7.2. CMake のインストール - Install CMake

インストール手順は以下の通り。

- Install with the following commands.

```
$ tar zxvf cmake-2.8.11.2.tar.gz
$ cd cmake-2.8.11.2
$ ./bootstrap --prefix=/opt/cmake-2.8.11
#インストール先を指定 Specify install target path
$ make
$ sudo make install
```

/home/user_name/.bash_profile に以下の行を追加

- Append the following description to /home/user_name/.bash_profile.

```
#CMake
PATH=$PATH:/opt/cmake-2.8.11/bin/
```

.bash_profile の設定を有効にするために、シェルを再起動するか、以下のコマンドを実行する。

- Reload .bash_profile or reboot your shell for reflecting configuration.

```
$ source /home/user_name/.bash_profile

CMake が利用可能になったか、以下のコマンドで確認する。
```

CMake か利用可能になったが、以下のコマントで確認する。 正しく CMake のインストールが行われていたら以下のように出力される。

- If installation is successful, output will be as follows.

```
$ which cmake
/opt/cmake-2.8.11/bin/cmake
```

7.3. MySQL のインストール – Install MySQL

必要となるファイルを以下の URL からダウンロードする。ダウンロードには Oracle のユーザ登録が必要である。

- Get the files from the following URL. You need to create Oracle account.

http://dev.mysql.com/downloads/mysql/

ダウンロードページを開いたら、Select Platform のプルダウンメニューで Source code を

選択する(図 7-2)。そして、Generic Linux (Architecture Independent), Compressed TAR Archive をダウンロードする(図 7-3)。

- Select "Source Code" at drop-down menu(図 7-2). Download Compressed TAR Archive(図 7-3)



図 7-3 ダウンロード対象

必要なファイルの用意が完了したら、以下の手順でインストールを行う。

- Install with the following commands.

ビルドを行う際に --enable-dtrace と --with-debug のオプションを忘れずに追加すること。このオプションをつけずにビルドすると SystemTap を用いた監視ができない。

- Note that don't forget --enable-dtrace and --with-debug options.

なお、make には非常に時間がかかる。マシン性能にも依るが約2時間かかった。

- "Make" command takes long time to complete. (It took about 2 hours.)

```
# sudo rpm -ivh /mnt/media/Packages/libaio-0.3.107-10.el6.x86_64.rpm
# sudo rpm -ivh /mnt/media/Packages/libaio-devel-0.3.107-10.el6.x86_64.rpm
# sudo rpm -ivh /mnt/media/Packages/bison-2.4.1-5.el6.x86_64.rpm
$ tar zxvf mysql-5.6.13.tar.gz
$ cd mysql-5.6.13
$ ./BUILD/autorun.sh
$ ./configure --with-debug --enable-dtrace --prefix=/usr/local/mysql-5.6.13
$ make
$ sudo make install
```

7.4. 動作確認 1: probe 一覧の表示

以下のコマンドを用いて probe の一覧が表示されることを確認する。

- Make sure that the list of Probes is output with the following commands.

```
$ sudo stap -L 'process("/usr/local/mysql-5.6.13/bin/mysqld").mark("*")'
```

ここまでの手順が正しく行われている場合、以下のように出力される。

- Make sure that the list of Probes is output with the following commands.

```
process("/usr/local/mysql-5.6.13/bin/mysqld").mark("command__done") $arg1:long
process("/usr/local/mysql-5.6.13/bin/mysqld").mark("command__start") $arg1:long
$arg2:long $arg3:long $arg4:long
process("/usr/local/mysql-5.6.13/bin/mysqld").mark("connection__done") $arg1:long
$arg2:long
/** 中略 **/
process("/usr/local/mysql-5.6.13/bin/mysqld").mark("update__row__done") $arg1:long
process("/usr/local/mysql-5.6.13/bin/mysqld").mark("update__row__start") $arg1:long
$arg2:long
```

7.5. MySQL の起動 - Start up MySQL

mysqlグループとユーザの作成と、パスワードの変更を以下のコマンドで実行する。

Create "mysql" user and group and set password with the following commands.

```
$ sudo groupadd mysql
$ sudo useradd -g mysql mysql
$ sudo passwd mysql
```

データを格納するディレクトリのオーナーを変更する。

- Change owner of data directory.

```
$ sudo chown mysql:mysql /usr/local/mysql-5.6.13/data/
```

以下のコマンドでデータベースを初期化する。

- Initialize DB with the following commands.(by mysql user)

```
$ su mysql
$ cd /usr/local/mysql-5.6.13/
$ /usr/local/mysql-5.6.13/scripts/mysql_install_db
```

ENdoSnipe Commutator 環境構築手順書

my.cnf の以下の行を編集する。

※cp./support_files/my_default.cnf /etc/my.conf で my.conf を事前にコピー (既存ファイルのバックアップを取り、mysql ユーザーは/etc 以下の書き込めないので root で作業する。)

- Append the following description to my.conf.

```
# These are commonly set, remove the # and set as required.
#インストール先ディレクトリ (Install target directory)
basedir = /usr/local/mysql-5.6.13/
#データを格納するディレクトリ (Directory to store data)
datadir = /usr/local/mysql-5.6.13/data/
```

以下のコマンドを実行すると MySQL のデーモンが起動する。

- Start MySQL daemon with the following commands.(by mysql user)

```
$ su mysql
```

- \$ cd /usr/local/mysql-5.6.13/
- \$ /usr/local/mysql-5.6.13/bin/mysqld

8. PHP の環境構築

必要となるファイルを以下の URL からダウンロードする。

- Get the files from the following URL:
- http://www.php.net/get/php-5.5.1.tar.gz/from/jp1.php.net/mirror
- http://ftp.gnu.org/gnu/autoconf/autoconf-latest.tar.gz
- パッチファイル(添付) Patch file

8.1. autoconf のインストール - Install autoconf

インストール手順は以下の通り。

- Install with the following commands.

```
$ tar zxvf autoconf-2.69.tar.gz
```

- \$ cd autoconf-2.69
- \$./configure
- \$ make
- \$ sudo make install

8.2. Apache のインストール

事前に lua 5.1.5 のインストールをする。(apache 2.4.6 の mod_lua に対応するバージョン) make でプラットフォームの一覧が表示される。

Linux を指定して make を実行。

```
$ tar zxvf lua-5.1.5.tar.gz
```

- \$ cd lua-5.1.5
- \$ make linux
- \$ sudo make install

Apache のインストール手順は以下の通り。

- Install with the following commands.

※apr, apr-util, pcre は rpm でインストールした場合…/lib64 の下に入ってしまい、認識されないため、tar ファイルを入手してビルドインストールする。

```
$ tar zxvf apr-1.4.8.tar.gz
$ cd apr-1.4.8
$ ./configure
$ make
$ sudo make install
$ tar zxvf apr-util-1.5.2.tar.gz
$ cd apr-util-1.5.2
$ ./configure
$ make
$ sudo make install
$ tar zxvf pcre-8.33.tar.gz
$ cd pcre-8.33
$ ./configure
$ make
$ sudo make install
$ cd /home/user_name/work/installer/package/apache/
$ tar zxvf httpd-2.4.6.tar.gz
$ cd httpd-2.4.6
$ ./configure ¥
--with-apr=/usr/local/apr/ ¥
--with-mpm=prefork ¥
--prefix=/usr/local/apache-2.4.6/ ¥
--with-apr-util=/usr/local/apr ¥
--enable-modules=all ¥
--enable-mods-shared=all ¥
--enable-mpm5-shared='prefork worker event'¥
--enable-lua -enable-sed
$ make
$ sudo make install
```

lua.conf を/usr/local/apache-2.4.6/conf/extra に置く

lua.conf

```
LoadModule lua_module modules/mod_lua.so
AddHandler lua-script .lua
```

/usr/local/apache-2.4.6/conf/httpd.conf に追記する

```
Include conf/extra/lua.conf
```

lua.confの設定に従い、/var/www 配下にテスト用のファイルを配置する。

```
$ pwd
/var/www/lua
$ ls
handle_quick.lua html
$ ls html
axs_test.html index.html
```

※テスト用ファイルは GitHub の doc ディレクトリに var_www_lua として配置されています。

handle_quick. lua が URL へのアクセスを検出する lua のスクリプトであり、html 配下にあるのはアクセス試験用の Web ページである。

この試験を実施する場合は、httpd.confで DocumentRoot を変更し、httpd を再起動する。

なお、lua の出力は/tmp/access.log に対して行われるので、Demo 用ツールを介して ENdoSnipeCommutator を経由し、DataCollector に渡すことで、DashBord に URL 毎の アクセス状況を示すグラフとなって表示される。

```
$ tail -f /tmp/access.log | ¥
./Demo/luademotool | ./ENdoSnipeCommutator/ens_commutator ¥
./ENdoSnipeCommutator/conf/commutator.properties
```

※luademotool は GitHub の doc ディレクトリに配置されています。別途ビルドしてください。

Apache の使用ポートのアクセス制御

/etc/sysconfig/iptables に以下の1行を追加する。

- Append the following description to /etc/sysconfig/iptables.

```
-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 80 --tcp-flags FIN,SYN,RST,ACK SYN -j ACCEPT
```

以下のコマンドを実行して iptables を再起動し、Apache を起動する。

- Restart iptables and start Apache up with the following commands.

\$ sudo /etc/init.d/iptables restart

\$ sudo /usr/local/apache-2.4.6/bin/apachectl start

/home/user_name/.bash_profile に以下の記述を追記する。

- Append the following description to /home/user_name/.bash_profile.

#Apache

PATH=\$PATH:/usr/local/apache-2.4.6/bin/

Web ページを格納するディレクトリのオーナーを変更する。

- Change owner of web page directory.

また、同梱する htdocs ファイルの中身を移動させておく。

- Move htdocs files to /usr/local/apache-2.4.6/htdocs

\$ sudo chown -R user_name:user_name /usr/local/apache-2.4.6/htdocs/

ここまでの手順が正しく行われている場合、ブラウザで http://192.168.56.10 にアクセスすると『It works!』と表示される。

- Make sure that the "It works!" is output with connecting http://192.168.56.10 by Browser.

8.3. PHP のインストール - install PHP

インストール手順は以下の通り。

Install with the following commands.

libxml2をrpmよりインストールした場合、.../lib64の下に入って認識されないのでtarファイルを入手してインストールする。

```
$ sudo rpm -ivh /mnt/media/Packages/patch-2.6-6.el6.x86_64.rpm
$ tar zxvf libxml2-2.6.30.tar.gz
$ cd libxml12-1.6
$ ./configure
$ make
$ sudo make install
$ tar zxvf php-5.5.1.tar.gz
$ cd php-5.5.1
$ patch < patch.txt</pre>
$ ./buildconf --force
$ ./configure --enable-dtrace ¥
--prefix=/usr/local/php-5.5.1/ ¥
--with-apxs2=/usr/local/apache-2.4.6/bin/apxs ¥
--with-mysql=/usr/local/mysql-5.6.13/ ¥
--with-pgsql=/usr/local/pgsql-9.2.4/ ¥
$ make
$ sudo make install
```

※patch.txt はダウンロードした php.patch よりコピーする。

.bash_profile に以下の行を追加

- Append the following description to .bash_profile.

```
#PHP
PATH=$PATH:/usr/local/php-5.5.1/bin
```

.bash_profile の設定を有効にするために、シェルを再起動するか、以下のコマンドを実行する。

- Reload .bash_profile or reboot your shell for reflecting configuration.

```
$ source .bash_profile
```

PHP が利用可能になったか、以下のコマンドで確認する。 正しく PHP のインストールが行われていたら以下のように出力される。

- If installation is successful, output will be as follows.

```
$ which php
/usr/local/php-5.5.1/bin/php
```

8.4. 動作確認 1: probe 一覧の表示 - Operation check 1: Display probe list

以下のコマンドを用いて probe の一覧が表示されることを確認する。

- Make sure that the list of Probes is output with the following commands.

```
$ sudo stap -L 'process("/usr/local/php-5.5.1/bin/php").mark("*")'
```

ここまでの手順が正しく行われている場合、以下のように出力される。

- Make sure that the list of Probes is output with the following commands.

```
process("/usr/local/php-5.5.1/bin/php").mark("compile__file__entry")
                                                                $arg1:long
$arg2:long
process("/usr/local/php-5.5.1/bin/php").mark("compile__file__return")
                                                                $arg1:long
$arg2:long
$arg2:long
$arg3:long
process("/usr/local/php-5.5.1/bin/php").mark("exception caught") $arg1:long
process("/usr/local/php-5.5.1/bin/php").mark("exception__thrown") $arg1:long
process("/usr/local/php-5.5.1/bin/php").mark("execute__entry")
                                                                 $arg1:long
$arg2:long
process("/usr/local/php-5.5.1/bin/php").mark("execute__return")
                                                                 $arg1:long
$arg2:long
```

8.5. Web アプリケーション監視環境の構築 - Build monitoring web application environment

/usr/local/apache-2.4.6/conf/httpd.conf に以下の記述を追加する。

- Append the following description to /usr/local/apache-2.4.6/conf/httpd.conf.

```
<FilesMatch ¥.php$>
   SetHandler application/x-httpd-php
</FilesMatch>
```

ここまでの手順が正しく行われている場合、ブラウザで http://192.168.56.10/info.php に アクセスすると図 8-1 のように表示される。

- Make sure that figure 8-1 is output with connecting http://192.168.56.10 by Browser.

Webbage Screensnot

ന്നമ//192.168.56.10/~്രമന

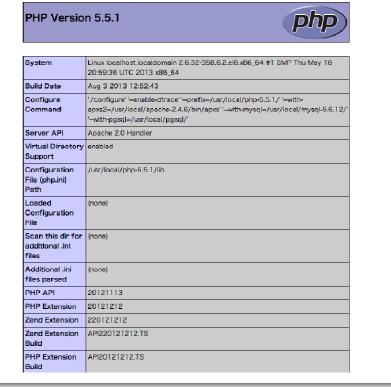


図 8-1 phpinfo のブラウザ画面出力

Browser output of phpinfo

8.6. Web アプリケーションの監視 – Monitoring Web application

以下のコマンドを入力すると、PHP の Web アプリケーションを監視するサンプルスクリプトが動作する。

Start monitoring script with the following command.

\$ sudo stap /home/user_name/work/sample/stap/php_mod.stp

ブラウザで http://192.168.56.10/hello.php にアクセスすると、呼び出された関数が標準出力に出力されることを確認する。出力の一例は以下の通り。

- Make sure that logs are output with connecting http://192.168.56.10/hello.php by Browser.

Function entry: File /usr/local/apache-2.4.6/htdocs/hello.php, Class , Function name hello

9. Python の環境構築

9.1. Python のインストール - Install Python

インストール手順は以下の通り。

- Install with the following commands.

```
$ sudo rpm -ivh /mnt/media/Packages/python-libs-2.6.6-36.el6.x86_64.rpm
```

\$ sudo rpm -ivh /mnt/media/Packages/python-2.6.6-36.el6.x86_64.rpm

\$ sudo rpm -ivh /mnt/media/Packages/python-devel-2.6.6-36.el6.x86_64.rpm

※debuginfo は無くても差し支えない。

※python は rpm で.../lib64 配下に入っても差し支えない。

Python が利用可能になったか、以下のコマンドで確認する。

正しく Python のインストールが行われていたら以下のように出力される。

- If installation is successful, output will be as follows.

\$ which python
/usr/bin/python

以下のコマンドを用いて probe の一覧が表示されることを確認する。

- Make sure that the list of Probes is output with the following commands.

```
$ sudo stap -L "python.*.*"
```

ここまでの手順が正しく行われている場合、以下のように出力される。

- Make sure that the list of Probes is output with the following commands.

```
python.function.entry filename:string funcname:string lineno:long $arg1:long
$arg2:long $arg3:long
python.function.return filename:string funcname:string lineno:long $arg1:long
$arg2:long $arg3:long
```

9.2. Web アプリケーション監視環境の構築- Build monitoring web application environment

mod wsgi のインストール手順は以下の通り。

Install with the following commands.

```
$ cd /home/user_name/work/PackageInstaller/package/python/
$ tar zxvf mod_wsgi-3.4.tar.gz
$ cd mod_wsgi-3.4
$ ./configure \( \text{Y} \)
--with-apxs=/usr/local/apache-2.4.6/bin/apxs \( \text{Y} \)
--with-python=/usr/bin/python
$ make
$ sudo make install
```

/usr/local/apache-2.4.6/conf/httpd.conf に以下の記述を追加する。

Append the following description to /usr/local/apache-2.4.6/conf/httpd.conf.

```
LoadModule wsgi_module modules/mod_wsgi.so
WSGIScriptAlias /python /usr/local/apache-2.4.6/htdocs/sample.wsgi
```

Apache を再起動する。

- Restart apache with the following commands.

```
$ sudo apachectl stop
$ sudo apachectl start
```

9.3. Web アプリケーションの監視 - Monitoring Web application

以下のコマンドを入力すると、Python の Web アプリケーションを監視するサンプルスクリプトが動作する。

- Start monitoring script with the following command.

```
$ sudo stap /home/user_name/work/sample/stap/python_mod.stp
```

ブラウザで http://192.168.56.10/python にアクセスすると、呼び出された関数が標準出力に出力されることを確認する。出力の一例は以下の通り。

Make sure that logs are output with connecting http://192.168.56.10/python by

ENdoSnipe Commutator 環境構築手順書

Browser.

Function entry: File /usr/local/apache-2.4.6/htdocs/sample.wsgi, Function name

application

Function entry: File /usr/local/apache-2.4.6/htdocs/sample.wsgi, Function name hello

10. Ruby の環境構築

10.1. Ruby のインストール - Install Ruby

インストール手順は以下の通り。

- Install with the following commands.

```
$ tar zxvf ruby-2.0.0-p247.tar.gz
$ cd ruby-2.0.0-p247
$ ./configure --prefix=/usr/local/ruby-2.0.0-p247/
$ make
$ sudo make install
```

.bash_profile に以下の行を追加

- Append the following description to .bash_profile.

```
#Ruby
PATH=$PATH:/usr/local/ruby-2.0.0-p247/bin
```

.bash_profile の設定を有効にするために、シェルを再起動するか、以下のコマンドを実行する。

- Reload .bash_profile or reboot your shell for reflecting configuration.

```
$ source .bash_profile
```

Ruby が利用可能になったか、以下のコマンドで確認する。 正しく Ruby のインストールが行われていたら以下のように出力される。

- If installation is successful, output will be as follows.

```
$ ruby -v
ruby 2.0.0p247 (2013-06-27 revision 41674) [x86_64-linux]
```

10.2. 動作確認 1: probe 一覧の表示

以下のコマンドを用いて probe の一覧が表示されることを確認する。

Make sure that the list of Probes is output with the following commands.

```
$ sudo stap -L 'process("/usr/local/ruby-2.0.0-p247/bin/ruby").mark("*")'
```

ここまでの手順が正しく行われている場合、以下のように出力される。

Make sure that the list of Probes is output with the following commands.

```
process("/usr/local/ruby-2.0.0-p247/bin/ruby").mark("array__create")
                                                                         $arg1:long
$arg2:long $arg3:long
process("/usr/local/ruby-2.0.0-p247/bin/ruby").mark("cmethod__entry")
                                                                        $arg1:long
$arg2:long $arg3:long $arg4:long
process("/usr/local/ruby-2.0.0-p247/bin/ruby").mark("cmethod__return")
                                                                        $arg1:long
$arg2:long $arg3:long $arg4:long
/** 中略 **/
process("/usr/local/ruby-2.0.0-p247/bin/ruby").mark("require_entry")
                                                                        $arg1:long
$arg2:long $arg3:long
process("/usr/local/ruby-2.0.0-p247/bin/ruby").mark("require__return")
                                                                        $arg1:long
$arg2:long $arg3:long
process("/usr/local/ruby-2.0.0-p247/bin/ruby").mark("string__create")
                                                                        $arg1:long
$arg2:long $arg3:long
```

10.3. Web アプリケーション監視環境の構築- Build monitoring web application environment

Ruby on Rails を用いた Web アプリケーション環境を構築する。

- Build Ruby on Rails web application environment.

最初に、Rails のインストールに用いる gem コマンドを有効にするために openssl をインストールする。実行するコマンドは以下の通り。

Install openssl with the following commands.

```
$ cd /home/user_name/work/PackageInstaller/script/
$ sh ./openssl.sh # 自動インストールスクリプトを利用 - use auto install script
$ cd /home/user_name/work/package/ruby/ruby-2.0.0-p247/ext/openssl
$ ruby extconf.rb
$ make
$ sudo make install
```

root の.bash_profile に ruby の PATH を追加する。

```
#Ruby
PATH=$PATH:/usr/local/ruby-2.0.0-p247/bin
```

ENdoSnipe Commutator 環境構築手順書

次に、Rails とそれに必要なパッケージをインストールする。

- Install required packages with the following commands.

```
$ cd /home/user_name/work/script/
$ sh ./rails.sh # 自動インストールスクリプトを利用 – use auto install script
```

次に、Rails のサンプルアプリケーションを以下のコマンドで作成する。

- Make sample application using Rails with the following commands.

```
$ mkdir /home/user_name/work/webapp
$ mkdir /home/user_name/work/webapp/rails
$ cd /home/user_name/work/webapp/rails/
$ rails new helloworld
```

外部ネットワークに接続できない環境においては以下のエラーメッセージが最後に出力されるが、このまま手順を続けて良い。

- Don't worry this error message.

```
Fetching source index from https://rubygems.org/
Could not fetch specs from https://rubygems.org/
```

./helloworld/Gemfile に以下の記述を追加する。

- Append the following description to ./helloworld/Gemfile.

```
gem 'execjs'
gem 'therubyracer'
```

最後に、3000番ポートの通信を許可する設定に変更する。

これは、Ruby on Rails の Web アプリケーションが 3000 番ポートを用いて通信を行うためである。

ネットワーク設定ファイルを \$ sudo vi /etc/sysconfig/iptables で編集する。 以下の行を追加する。

- Append the following description to /etc/sysconfig/iptables.

```
-I INPUT -p tcp -m tcp --dport 3000 --syn -j ACCEPT
```

以下のコマンドを実行して iptables を再起動し、Rails サーバを起動する。

Restart iptables and start Rails server up with the following commands.

```
$ sudo /etc/init.d/iptables restart
```

- \$ cd helloworld/
- \$ rails server

以上の手順までで、Web サーバが起動した。

ブラウザで http://192.168.56.10:3000/ にアクセスすると図 10-1 のように表示される。

- Make sure that Figure 10-1 is output with connecting http://192.168.56.10:3000/ by Browser.



図 10-1 ブラウザ表示

以下のコマンドを入力して簡単な web アプリケーションのサンプルを作成する。

- Make simple web application with the following commands.

```
$ cd /home/user name/work/webapp/rails/helloworld
```

\$ rails g scaffold product name price:integer

\$ rake db:migrate

ブラウザで http://192.168.56.10:3000/products にアクセスすると Listing products と表示 される。"New Product"のリンクをクリックしてデータを入力すると、表示されるデータを 追加することができる。

- Make sure that the "Listing products" is output with connecting http://192.168.56.10 by Browser. You can add date by "New Product".

10.4. Web アプリケーションの監視 - Monitoring Web application

以下のコマンドを入力すると、Ruby on Rails の Web アプリケーションを監視するサンプルスクリプトが動作する。

- Start monitoring script with the following command.

\$ sudo stap /home/user_name/work/sample/stap/rails.stp

先ほど構築したサンプルアプリケーションを操作すると、呼び出された関数が標準出力に 出力されることを確認する。出力の一例は以下の通り。

- Make sure that logs are output with connecting http://192.168.56.10:3000/product by Browser.

Method entry: File

 $/home/user_name/work/webapp/rails/helloworld/app/controllers/products_controller.r$

b, Class ProductsController, Method name set_product

Method entry: File

 $/home/user_name/work/webapp/rails/helloworld/app/controllers/products_controller.r$

b, Class ProductsController, Method name edit

11. 参考情報 - Reference

11.1. SystemTap

• http://sourceware.org/systemtap/SystemTap_Beginners_Guide/

11.2. PostgreSQL

• http://www.postgresql.org/docs/9.2/static/dynamic-trace.html

11.3. MySQL

- $\bullet \quad http://www.slideshare.net/posullivan/monitoring-mysql-with-dtracesystem tap$
- http://dev.mysql.com/doc/refman/5.5/en/dba-dtrace-mysqld-ref.html